

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成24年6月号

編 集

発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3

一般社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発 行 日

毎月1日

定 価

1部 150円 1カ年1,600円(送料共)

郵便振替

00190-5-396045

名 義

一般社団法人 日本病院会 通信教育部

## これからの診療情報管理へ向かって

朔 元則

国立病院機構九州医療センター 名誉院長  
福岡会場 基礎課程(臨床医学総論) 講師

古代エジプトの時代、ナイル河畔に茂っていたパピルス(学名 *Cyperus papyrus*、和名カヤツリグサ)に起源を発する紙の文化は、2300年の歴史を経て、いまや急速に「電子の文化」にとって変られようとしている。私自身は、未だ鉛筆で400字詰原稿用紙の升目を埋める作業で文章を書いているが、あと10年もすればこのような人間は完全に少数派になってしまうであろう。

書籍が電子化されるよりも数倍早いスピードで電子化が進んでいるのが診療情報の世界である。大病院の多くで電子カルテの導入が進んでいるし、診療報酬請求のレセプトはすでに90%以上電子化されている。診療情報管理に携わる方々に要求されるのは、この電子化の波に乗り遅れないようにすることは勿論であるが、電子化の利点を生かした新しい診療情報管理を構築していくことであろう。

この点、昨年開催された第37回日本診療情報管理学会における、桜井芳明宮城県医師会副会長(国立病院機構仙台医療センター名誉院長)の発言は非常に参考になると私は考えている。桜井副会長は、石巻市民病院と山形市立病院の院長同士がたまたま東北大学医学部のクラスメイトであったという関係から、診療情報の電子化の機会を捉えて、診療情報の相互管理をしていたというエピソードを紹介された。東日本大震災で石巻市民病院の診療情報は完全に消失したが、山形市立病院に保管されていたバックアップデータのお蔭で、石巻市民病院はスムーズに診療再開を果たすことが出来たそうである。

診療情報の電子化に伴う利点はこのほかにもまだまだたくさんあると思う。紙の文化で育った病院管理者達に頼らず、現場で診療情報の管理に当たっておられる診療情報管理士の皆様方から、斬新なアイデアをどんどん出していただいき、今後の診療情報管理の発展に繋げていただいきたいと考える昨今である。

